

ことばを豊かに育てるために、 子どもの伝えたいという気持ちを のばすように関わりましょう♪

先生からのひとこと

子どもを見守りながら、

何を伝えたいのか観察してみましょう。

ことばだけでなく様々なサインを受け止めて、

子どもの“本当に伝えたいこと”を

理解しようとする姿勢が大切です。



作成協力
言語聴覚士
三吉 聰子先生

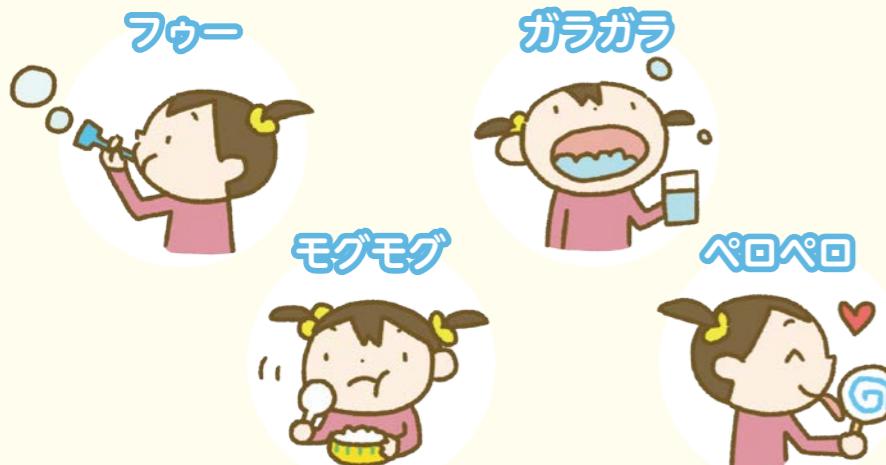
Q

うちの子は
「つみき」を「チュミキ」、
「おさかな」を「オシャカナ」と
言うんです



A 舌の動かし方が関係しています。「サ・シ・ス・セ・ソ・ツ」は発音が難しい音です。正しく発音するためには、口や舌を上手に動かす力が必要です。

舌を
たくさん
動かそう



ポイント

“伝えたい”という子どもの気持ちを受け止め、「そうだね。つみきだね」と正しい発音を示すとよいでしょう。

Q

言いたいことがあっても、
上手くことばで表現
できなくて、泣いたり、
たたいたりしてきます

A

知っていることば・使えることばが、まだ少ないのかもしれません。ことばを使えるようになるためには、まず、理解できることばを増やすことが大切です。

わかる
ことばを
増やそう

実物を見せて、大人が「〇〇だね」と伝えることで、ことばが知識として定着しやすくなります。大人が自分の気持ちや行動をことばにして表現することも一つの方法です。

ポイント

子どもが興味をもっているもの・注意をむけているもの話題にしましょう。



Q

自分の言いたいことを
一気に話すので、
話がわかりにくいときが
あります

A

自分の気持ちや出来事を伝えたいという思いが強く、衝動的に話しているようです。子どもの気持ちを受け止め、相手に伝わる話し方の見本を示してあげましょう。

整理
しながら
聞いて
みよう

ポイント

「〇〇だったんだね。だから～と思ったんだね」と話を整理し、言い換えて伝えてみましょう。これは、話し方の見本になります。

話している子どもの顔を見て、大きな身振りでうなずいたり、相づちを打ったりして「あなたの話に興味を持って聞いているよ」という態度を見せることが、子どもの“伝えたい”という気持ちを育てます。



ポイント

「それはいつのこと?」「だれのおはなし?」と質問しながら聞くと、子どもの話が整理されて、理解しやすくなるでしょう。